

大樹の命名は単純にテレビドラマに出ていた子役の名前からとりました。もちろんのこと姓名判断等、今だもってしておらず、ただ思いつきだけで名付けました。

実は大樹は、口唇口蓋裂という障害をもって生まれてきました。

出産と同時に大樹は看護婦さんたちに別の病室につれていかれ、初めてわが子の顔を見たのは半日以上出産からたってから、それも、ほんの一瞬だけでした。たしかにショックでした。五体満足にも生んであげられなかった悲しさと、夫に対する申し訳無さで、涙がとまりませんでした。

他のお母さんが授乳のため、1人残された病室でなにげなく見ていたテレビドラマの子役の名前が大樹だったのです。

大地にしっかりと根をはり、大空にむかってその深緑の枝葉をのぼし、雨や風など、そんな小さなことなどまったく気にせず、そのまわりには、たくさんの動物たちが憩う。悠然とした生き方。そんな情景を思い浮かべました。出産前に2人で決めていた。“匠”という名前があったにはあったのですが、夫は「小器用な人間になるよりも、ドーンとしていいじゃないか」とすぐに賛成してくれました。そして「この小さな苗木にこれから2人で水をやり、肥料をあたえ、立派な“大樹”に育てあげていこう」と言ってくれたのでした。

その苗木も3度の形成手術をへて、順調に大樹になるため、すすくと今では小学4年生になりました。いつか都会の大樹に、北海道の大自然の中で生きる大樹を見せてあげたいと思います。



平成7年4月10日、市立札幌病院で大樹は誕生しました。

生後7ヶ月の早産で、664gという超未熟児の小さな小さな、私達の初めての赤ちゃんです。帝王切開で生んだので、意識もうろうの中、仮死状態で生まれた我が子を、1・2秒見せてもらいすぐに、保育器に移し、人工呼吸器を付け未熟児センターの先生達が、NICUに連れていきました。麻酔から目をさまし、主人から言われた言葉が、「もって3日、1日も早く赤ちゃんの名前を付けて下さい。って…」

次の日、面会時間に初めての対面です。看護婦さんに連れていってもらい、白衣に着がえ、ボウシにマスク、手の消毒を終え、小さな保育器の中に、本当に小さな我が子がいました。手の平にすっぽりと入りそうで、足や手は、小指ぐらいの細さで、指は、つまようじみたいに細く、触れたら壊れそうで、ずっと涙がとまらなく、心の中で、「死んじゃだめ、がんばって生きて」と、面会時間が終わるまで祈っていました。

その日から、一生懸命生きようとがんばっているのに、母親が泣いていたらいけない、この子は絶対に、使命がある大丈夫と強く思えるようになりました。

主人は、この子の名前を、大きい樹木みたいに、たくましく成長し育てくれるよう“大樹”と命名しました。

半年という病院生活の中で、未熟児網膜症になり「目は見えないかもしれない」と言われ、いく度となく治療を重ねた結果、眼鏡は掛けることになったのですが、光は失わずにすみました。

4320gの体重で無事に退院する事ができました。



今では、4才になり2才の弟と元気よく遊んだり、ケンカしたりと、とてもいそがしい毎日ですが、特別に病気する事なく、親孝行の立派な息子です。

小さく生まれてきたけれど、私達を1つ大きく成長させてくれた、大切な大切な我が息子、大樹です。(母)

北海道小清水町の大樹さん

特別住民番号075

平成10年3月16日、午後2時31分、妊娠37週0日、帝王切開にて2394グラムの小さいけれど、元気な男の子が産まれました。おじいちゃん、おばあちゃん、それにお兄ちゃんになった貴啓(たかひろ)、そして小清水町の水上地区のみんなが、誕生を喜んで下さいました。とても幸せな赤ちゃんです。弟ができるのか、妹かとワクワクしていた貴啓は、診療室までついてきて、超音波の画面を前に「先生！男の子？女の子？」と質問、



先生は「ボクと同じのついてるみたいだよ、ココ」と教えて下さいました。そのことをお父さんに報告、その頃から「大地」「大樹」と考えていたそうです。大きな樹のように、のびやかに堂々と、この大地に根ざして欲しい。小さな種から芽吹き、やがて大きく育つ樹の生命力にあやかっ、大樹と命名しました。その名の通り、すくすく育っています。1歳6ヶ月になり、トラクターの音がすると「とうちゃん」と大きな声で呼びます。一緒に、この広い畑で仕事する日が来るのを楽しみにしています。(母)

北海道函館市の大樹さん

特別住民番号081

私の名前「大樹」は、「たいき・ひろき」とも読むことができます。

読み方は、私の場合は「だいじゅ」なのですが、昔は1回で読める人はほとんどいませんでした。最近の6~7年の間に「大樹」の名前を子供に付ける人が増えて、ようやくこの名前もちゃんと市民権を得たようです。



私の名前「三井大樹(みついだいじゅ)」には、面白いエピソードがたくさんあります。今から13年前、愛知県のスーパーで働いていた時のことです。「三井大樹」の名ふだをつけて団地へ営業にゆきますと、よく、お客さんが名ふだを見て「うちは生命保健はいらんよ」というのです。

ある日などは、旅行会社へ行き、飛行機のチケットを買おうとして、名前の欄に「三井大樹」と書いたところ、受け付けの女の人が「お客様！お名前の欄には法人名ではなく、個人名をお願いします。」と言ったので目を白黒したこともありました。

三井生命の大樹保健とまちがわれたのですね。

ちなみに、私の名前のほうが生命保健より先につけられましたので。念の為、書いておきます。

名前の命名の由来は、母は大きな樹木のまわりに多くの人が集まり、よりそい、強い日ざしや雨や風をしのぐような、そんな大木のような心の広い人間になってほしかったからだと申しておりました。

どうやらその願いは残酷にも、打ち砕かれたようです。

父は、ただ、でかい人間になってほしいからだと……。日立の木のような人間になっ

てほしいということでしょうか。

この願いも、身長165センチの私にとっては、こなごなに打ち砕かれたねがいといったところでしょうね。

でも私はこの「大樹(だいじゅ)」の名に、すごく、誇りを持っています。1度聞いたら忘れられない名前なので、人におぼえてもらえるからです。

私は、親からもらったこの名を、一生大切にしていきたいと思います。

北海道芦別市の大樹さん

特別住民番号107

僕の名前も、やっぱり「大樹」です。現在、16歳で高校1年生です。

ついでに言うと、硬式テニスをやっています。性格は、ちょっとアホっぽくて、いつもギリギリの人生を送っています。別に好きでやっている訳じゃないんですけど、まるで何物かに操られているかのような気分です。そんなオイラの名前の由来ですが、とりあえず、僕に名前をつけてくれたのは、「ともちゃんのばあちゃん」です。はい？と、いう人もいるかもしれませんが、これはいわゆる愛称ってやつで、要するに僕のばあちゃんです。



そっちの名前の由来は置いて、ともちゃんのばあちゃんは、僕が生まれた時に、名前の画数とかを沢山調べて、僕に名前をつけてくれたそうです。いくつか候補もあったそうで、もしかしたら、「周平」という名前になっていたかも知れなかったのです。でもやっぱり、「岩花」という名字に対して、「大樹」という名前が、その画数ってやつで言う一番良かったそうです。僕としては、「大樹」という名前が良かったなと思います。長い間そう呼ばれて、この名前に愛着があるせいかも知れないけど、「周平」って呼ばれてたら、何か変な感じがしますね。それに、「大樹」じゃなかったら、この本にも載らなかったしね。あと、この名前の意味としては、大きい樹木のように、真っすぐと育てて欲しいという意味が込められているそうです。

僕は、これからも「大樹」です。ずっとずっと「大樹」です。僕は、この名に恥じぬよう精一杯の努力をし、誇りと野望を持って、生きてゆこうと思います。ちゃんちゃん。

北海道小樽市の大樹さん

特別住民番号115

彼が、生まれた日の事は昨日の事のように、覚えています。

私が、8ヶ月の定期検診に、病院へ行ったら、先生の顔色が見る見るこわばってゆくのわかりました。「お母さん、赤ちゃんの心音が、少し……。お父さんに連絡できますか」と……。

そして、アッという間に、救急車へ。北大に運ばれ、その日の夜中の11時45分に、1890グラムでこの世に出てきました。その後、保育器に入れられ、20時間位、生死をさまよったそうです。その間、主人は、1人きりの心の中に、しまっていたのです。やっと、保育器から出られて、普通の赤ちゃんと同じベッドに、寝かされ、毎日1回の面会のおへやにつれてゆけるようになったのは、生まれてから3週間たってからでした。私は、うれしくて、うれしくて、そうっと見にいきました。他の赤ちゃんと並んで、大樹が眠っていました。「大樹」と大きく書いてありました。まさかこんな小さく



生まれるとは思ってもよらないことで、前から、主人と2人で「大樹」と、決めていました。でも、改めてその小さな小さな大樹を見て、その「大樹」と書いてある字を見て、ものすごく感動しました。でも、横で見ていた女の人が、大樹を見て「あら、この子名前負けだね」と、私はくやしくてくやしくて、今でも忘れられません。でも、お陰様でその大樹も信じられないくらい、大きく(大きくなりすぎて?)なって、明日、8月19日、7才になります。名前の通り、心も体も大きく、成長していってくれることを家族全員で願っています。(母)

北海道札幌市の大樹さん

特別住民番号123

私達夫婦にとって初めての子供・両家にとっても初の孫で皆の期待を希望を一身にうけ祝福されて大樹は生まれました。親としての自覚などまだなく頼りない私達でしたが、いずれ私達の手を離れ巣立っていってしまう我が子に残してあげられるもの“名前”だけは両親2人で考えてつけようと産まれる前から考えていました。いろいろな本も読みました。両親の名から1字ずつとも考えましたが結局、父親の名「幹夫」から考えて、「お父さんの“幹”よりも大きな“樹”になれるような男の子に成長して欲しい」ということで「大樹」という名に決めました。ちなみにうちの子は“だいき”と読みます。濁点がつくと良くない名だと言われたこともありましたが彼は今小学2年生すくすくのびのびと成長しています。(母)



北海道常呂町の大樹さん

特別住民番号127

平成6年6月10日午後4時32分、結婚して4年2ヶ月。待ちに待った長男大樹の誕生でした。

なかなか赤ちゃんに恵まれず、あきらめかけた時の妊娠でした。妊娠中も切迫流産、切迫早産、妊娠中毒症をなんとか乗り越え、予定日より2週間も早く、破水から始まり出産まで12時間もかかってしまったため、仮死状態で産声を聞く事ができなく、ずいぶん心配しました。

身長54センチ、体重3755グラムの大きな赤ちゃんでした。

生まれる前はいろんな名前を考えていましたが、初めて赤ちゃんに会った時“ひろき”という名前が浮びました。字はどんな字にしたらいいだろうと考えて、せっかく大きく産まれてきたんだから「大」という字を使い「き」は、主人の好きな樹木の「樹」で、「大樹」と書いて(ひろき)に決まりました。

「いい名前だね」「呼びやすい名前だね」と言われて嬉しかった事を思い出します。名前の様に、大きくのびのびと元気いっぱい育ててほしいという私達両親の願いどおり、外遊びが大好きな5才のわんぱくな男の子になってくれています。

昨年の夏、大樹と同じ字の町“大樹町”へ行く事ができました。町のあちこちにある大好きなスペースシャトルに、大樹は大喜びでした。何か縁があるんでしょうね。

大樹は10月にお兄ちゃんになる予定です。来年の夏は親子4人で大樹町へ遊びに行きたいと思っています。



大樹、これからも名前に負けない様に大きな優しい心を持ち、大地に根をはる樹の様に意志の強い子になって下さい。

最後になりましたが、大樹町の御発展をお祈りしています。(母)

北海道釧路市の大樹さん

特別住民番号130

大樹という名前は、父がつけました。♪この木なんの木、気になる木♪の歌が印象深く、そこから“大樹”と命名。

わが家の大樹は、その名の通り大きくたくましく育っています。産まれが3400gもあり、1才頃まで、まるまるのおデブさん。このまま育っちゃうとどうなるんだろう？と、母はとっても心配しました。今、家の中で、頭囲が1番大きいです。ひょうきん者で、よく人を笑わせてくれるので、将来は、よしもとに入れようかな？と思っています。



3人兄弟の末っ子で、甘えん坊な所もありますが、中学3年生のお兄ちゃんと、幼稚園の頃から、モトクロスをやっています。50cc、60ccと乗り、今は80ccのオートバイに乗っています。5年生になったら、全道戦デビューです。人なつっこく、誰と(大人の人)でも、友達になってしまいます。ちょっと短気だけど、すごく優しい子、それに、大樹の1番良い所は、ありがとう。という言葉が、いつでも言える事です。親バカかな？

今のままの大樹で、その名の通り、大きい人になって！(母)

北海道札幌市の大樹さん

特別住民番号132

僕の名前は、藤山大樹(ひろき)と言います。

昭和57年9月12日、父(正敏)母(玲子)の長男として、苫小牧の病院で産まれました。

大樹(ひろき)という名は、父が付けました。

木がスクスク大きく丈夫に育つようにと願って決めたそうです。

決して偉くなれとかは思っていなかったようです。

母は、気に入らなかったため、市への出生届時父ともめたらしい。

僕は、今札幌月寒高校2年生で、硬式野球部に入っています。

身長177センチ、体重69キロ。

藤山家では、1番体格がりっぱになりました。

大樹(ひろき)という名前が良いのでしょうか。

小学生のころ、自分の名前を「ひろき」とすんなり呼ばれず嫌いでしたが、高学年になってからは自分の名前は少しずつ気に入ってきています。頑張ります。

